

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ルリタテハ	タテハチョウ科	青・黒・白の配色の妙	○	x	○	全国



韮崎 7月中旬 クヌギの樹液を吸う。上にベニシタバがいる

成虫発生時期(月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○ 食草		食樹		発生回数/年		越冬形態					
ホトトギス、サルトリイバラほか				3		成虫					

とにかく飛ぶのが速い蝶です。成虫で越冬することもあり年中見られるのですが、特に秋に見る機会が多いような気がします。秋の生田緑地では、柿の実が熟して落ち出す頃にルリタテハ、ムラサキシジミなどが腐りかけの果汁を求めて木に集まるのが見られます。

サルトリイバラを食す幼虫(新沼市民の森5月下旬)



生田緑地 11月初旬 日向ぼっこのイメージが強い蝶

ルリタテハによく似たイメージをもつのが山地性のキベリタテハです。こちらは草でなく、ダケカンバ、シラカバといった木の葉を食します。羽の外縁の黄色い縁取りの内側に並ぶ青斑が印象的ですが見る機会は少ない蝶です。



宮古島 3月下旬 島のあちこちに多い



キベリタテハ 長野県南佐久郡 8月末  
東日本の山地～北海道に産するが見る機会は少ない



キベリタテハ 2020年8月24日 入笠山 配色・デザインともに渋い派手さあり